

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会主催

## 第13回思春期医学臨床講習会報告

開催日時：2018年5月20日（日）9：45～16：45

開催場所：エッサム神田ホール2号館4階大会議室（2-401）

（所在地）東京都千代田区内神田3-24-5

参加費：医師5,000円，非医師3,000円

参加者数：133名

第13回思春期医学臨床講習会に参加された133名の受講者の内訳は95名が小児科医，12名がその他医師，12名が看護・心理職，医師91%，非医師9%であった。医師受講者の年代は20～30代が18%，40代が18%，50代が28%，60代が18%で，初回参加者は66%であった。開催場所に関しては9割の方が適切であるとの回答を得た。

今回の講習会テーマは“思春期における神経発達症の心，身体，生活を支える”とし“思春期神経発達症の自立に向けた支援”を2部構成とした。第1部はそれぞれの専門領域にある医師による講演をいただいた。岡田俊先生は「発達障害のある子の思春期の育ちと併存障害」と題して思春期を迎える神経発達症の子どもが抱える生活の困難さと併存症を解説した。「思春期やせの現状：神経発達症との関連」を作田亮一が担当した。また，笠井清登先生は「思春期・AYA世代支援の科学」を講演いただいた。日本で最大級の長期コホート調査である東京ティーンコホートについて，思春期の健康をいかなる視点で支えるか解説をいただいた。第2部は，非医師演者による講演とした。小池浩次先生は「特別支援教育における思春期生徒への就労支援」として，ご自身が特別支援学校校長として携わってきた就労支援の経験を報告していただいた。棚村政行先生には，弁護士の立場から「思春期少年の触法行為と支援」について概説していただいた。小児科医にとって，社会に出る子ども達の生活支援の実態を知る機会となった。最期に，山本淳一先生に「神経発達症へのペアレント・サポート/トレーニング：発達・行動的支援」を講演いただいた。応用行動分析学の基礎概念に基づく，親へのサポート，行動的支援が必要であること，褒めることの意義，について理論的に解説していただいた。今回の研修では，思春期の神経発達症における医学的特徴と治療を知るばかりではなく，社会生活の中で成人に移行する時期にどのような問題（就労の困難さ，非行等）があり，具体的な対応として心理学的サポート（ペアレントペアレントトレーニング等）を学ぶことができたと考える。参加者からの意見として，別の会場が良いが1/4認められた。研修会のテーマ，演題の内容に関しては90%以上が評価し再度参加を希望していた。60分の講義が前半，後半3時間連続であり時間の都合でトイレ休憩がないため，休憩時間を入れるべき，との意見があった。専門医更新制度の小児科領域講習単位を2単位ではなく，6単位に増やすべきとの意見があった。非医師の講義に関してプレゼンの方法（PowerPointの使用など）など打ち合わせをすべき，との意見があり，今後事前打ち合わせをさらに十分行うべきと考えられた。今後取り上げて欲しいテーマとして，インターネット・ゲーム依存に関わる内容，睡眠の問題，LGBT・性教育・性虐待，トランジションの問題，心理士不在でどこまで一人で外来ができるか，など様々な要望があった。今後当講習会での課題として検討を願いたい。（文責 作田）